

## 🌸🌸 「想定を信じるな！」 🌸🌸🌸🌸 校長 三輪 秀文 🌸

3月に多くの犠牲者を出した三陸地方に、「津波てんでんこ」という言い伝えがあることを耳にしたとき、こみ上げる涙を抑えることができませんでした。「親子といえども、だれかれかまわず、てんでんばらばらに必死で逃げろ！」というとても悲しい言い伝えだったからです。古くから津波に苦しめられてきた三陸地方の人々が、家族や集落が全滅することを防ぐために、津波は必ずやってくるということを覚悟しながら、それでも、人の命と三陸というふるさとを大事に思う切実な言い伝えだったからです。

今年も、例年のように6月に避難訓練を実施しました。子どもたちが大人になったとき、いま日本で起こっている出来事をどう語るのだろうか。そして、子どもたちが大人になったときの日本はどうなっているのか、などを考えながら、今年は特別な思いで臨みました。炎天下の限られた時間の中で、肉声を張り上げ、子どもたちを前に「津波てんでんこ」について話をしました。防災に関する「知識」は大切ですが、それ以上に“自分の命と身の安全は自分で守る”という強い意志が大事であること、そして、“命があれば未来はある”との何より命が大切であることは、東北から遠く離れた地ですが、子どもたちにうまく伝わったのでしょうか。



さて、いよいよ夏休みが始まりますが、この夏休みには「健康」や「安全」にいくら注意しても、し過ぎるということはありません。アウトドアの機会も増えます。夏は水辺や山が恋しくなりますが、そこでは、楽しさと水難事故や転落事故の危険と隣り合わせです。また、夏休みには自転車に乗る機会も増えます。中学生の交通事故は、軽はずみな判断や不注意による自転車事故が特徴です。さらには、気温の高い夏場ですから、食中毒などの食品の安全性や衛生面にも十分気をつける必要があります。

学校では、夏休みの「健康」と「安全」について、口を酸っぱくして、あの手この手で伝えようとしています。保護者のみなさんも子どもたちも、小学校のときから常に言われ続け、百も承知であるにちがいありません。どうしたら子どもを事故から未然に守ったり、被害を最小限に食い止めたりすることができるのでしょうか。

悲観的かもしれませんが、この時代、自分は必ず事故に見舞われるという覚悟が必要なのでしょうか。天災、人災に限らず、事故の多くは、想定外の「そんなはずでは…」で始まるものです。いま、多くの子どもたちの命を救った釜石の防災教育が注目を集めています。その教えは、「想定を信じるな」「最善を尽くせ」「率先避難者たれ」というものです。想定に頼れば、想定外の事態に対応できなくなるから、想定を信じてはいけないというのです。事前に

どんな想定をしても、現実の災害の恐ろしさは単純ではないから、そのときできる最善を尽くさなければならないというのです。必死で逃げる姿が周囲への最大の警告になるから率先避難者たれというのです。「津波てんでんこ」同様に、本当に考えさせられます。

現代社会では、子どもが犠牲になる犯罪も多発しています。だからこそいま、子どもたちには、自分の知恵と意識で、身近な危険を予測し、その危険を防止したり、回避したりしていく



能力を身につけさせなくてはならないとつくづく感じます。それには、保護者のみなさんもまた、健康や安全に関わる身の回りの情報に敏感になるとともに、子どもたちには、何よりも危険なところには近づけないということが大切です。子どもたちの自分自身を大切にしようとする心を育てることは、自分の命はもとより、家族や仲間の命を大切にしようとする心に必ずやつながっていくはずですから…。